

令和3年度を振り返って

広島市民病院看護部では2020年度と同様に目標を2つ挙げました。

1つ目の目標は、看護職の責務を担い「生活と保健・医療・福祉をつなぐ」を加え、質の高い看護を提供する。2つ目は、働きやすさから「働きがい」へ表現を変え、職場環境を整備することでした。1つ目の目標は、レジリエンスの高い看護管理者育成のため、師長補佐研修に向けた取り組みを行いました。その結果、2022年度から師長補佐研修を開始することになりました。また、広島県の訪問看護師出向モデル新規事業に参画しました。地域の中核病院として、訪問看護ステーションなど近隣事業所と連携し、在宅療養支援能力の質向上を図るとともに、自施設看護職員の在宅を見据えた支援意識の向上を図ることができました。



2つ目の目標は、2020年から働き方改革として始めた、変則2交代制勤務の継続と、業務改善による「働きがい」に取り組みました。昨年度変則2交代を開始した部署がCOVID-19感染症患者受け入れ病棟となったため、新たな部署へ変更し継続することができました。変則2交代制勤務の導入及び拡大は、働き方改革において必須事項だと捉えています。2022年度も新規部署参入に向け準備をすすめて参ります。また、看護部の長年要望であったカーテンリースが採用されることとなりました。このことは、看護補助業務員へのタスクシフトやタスクシェアへとつながり、患者さんのベッドサイドケアの充実を図ることで「働きがい」へとつながることに期待しています。

2021年度は、COVID-19感染症の拡大防止へ取り組みを続けながら、新しい生活様式が、当たり前の生活へと変化しました。医療界においてもICTの活用によるDXなど、様々な変革がもたらされつつあり、その過程で当たり前の良質な医療・看護とは何かを問われてくるのではないかと思います。その問いに応えるため、医療・看護の質向上に最も大切な人財が、共に学び、互いに学び合える育成環境を整え、「働きがい」を持ち続けられるようにすることが大切です。そして、複合的なニーズを抱えた地域の人々へのサービス提供について、自施設の単一的なサービス提供にならないよう、広島市立病院機構全体で取り組む課題として連携と協力を継続して参ります。

どうぞ今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

広島市立広島市民病院
副院長（事）看護部長 長谷川 聡子